

ことわざ

いみ

お互^{たが}いの気持^{きも}ちや調子^{ちょうし}がぴったり^あ合うこと。

阿吽^{あうん}の呼吸^{こきゅう}

なぞりがき

よみ

阿吽^{あうん}の呼吸^{こきゅう}

ことわざ

いみ

げんき
元気をなくしてしょんぼりしているようです。

青菜に塩

なぞりがき

よみ

あおな しお
青菜に塩

二

よみ

青は藍より出でて藍より青し
あお あい い あい あお

なぞりがき

青は藍より出でて藍より
青し

いみ

教えを受けた人が、教えた人よりも優れるこ
と。
おし う ひと おし ひと すぐ

よみ

あき ひ つるべお
秋の日は釣瓶落とし

なぞりがき

秋の日は釣瓶落とし

いみ

あき ひ ま く
秋の日はあつという間に暮れるようす。

よみ

あくせんみ っ
悪銭身に付かず

なぞりがき

悪銭身に付かず

いみ

わる こと
悪い事をして手に入れたお金は、
すぐになく
なってしまう。

六

よみ

あしもと とり
足下から鳥が立つ た

なぞりがき

足下から鳥が立つ

いみ

みぢか ばしよ おも
身近な場所でも思ってもみないことが起こる お
こと。

おも た なに はじ
思い立ってすぐに何かを始めること。

よみ

あす ひやく きょう ごじゅう
明日の百より今日の五十

なぞりがき

明日の百より今日の五十

いみ

さき わ いまかくじつ て はい
先のことは分からないので、今確実に手に入
るものを大切にすべきという考え。
たいせつ かんが

よみ

あだし野の露、鳥辺野の煙

の つゆ とりべの けむり

なぞりがき

あだし野の露、鳥辺野の

煙

いみ

人生は、はかなくて無常なものである。

じんせい

むじょう

よみ

あたまかく
頭隠して
しりかく
尻隠さず

なぞりがき

頭隠して尻隠さず

いみ

いちぶぶん
一部分だけをかくして、
ぜんたい
全体をかくしたつもり
でいること。

十

よみ

暑あつさ寒さむさも彼岸ひがんまで

なぞりがき

暑さ寒さも彼岸まで

いみ

夏なつの暑あつさも冬ふゆの寒さむさも、春はると秋あきの彼岸ひがんのころ
までで、それ以後いごは過すごしやすくなる。